

原野教授への国防メダル「ブロンズ」授与式
(於広島、2023年7月3日)

在日フランス大使館付国防武官のスピーチ

岸田内閣総理大臣夫人、
総領事、
名誉領事、
原野教授、
お集まりのみなさま

本日は日仏防衛協力の道に「新たな石を敷く」ためにお集まりいただきました。この道は既にとても長く、そのはじまりは江戸末期に遡ります。明治時代になると道の建設は一機に加速しました。世界が混乱に陥った時代、道の建設は一時期、中断されてきましたが、その後再開され、2014年にはフランスと日本の間の特別なパートナーシップが締結されました。更に、2023年の前例のない防衛協力の進展へとつながっています。

この道は何よりも、具体的な行為によって築かれるものです。目に見える行為が最も有益なものとは限りません。目立たなくとも、世代、流行、政権や危機を超越し、深く根付くものもあります。本日、私たちはこうした原野教授の地道な活動に敬意を表すために、集まりました。この後、私から原野教授に、フランスからの深い感謝の印を厳かに授与できることを大変光栄に思います。

その前に、憂慮すべき状況にある世界情勢により印象付けられた2023年について、一言申し上げたいと思います。ロシアによるウクライナ侵略は、欧州を再び戦争に巻き込み、何千人もの死者が出ました。何ための死でしょうか？この戦争は愚かで、他の国々が同様の行為に及ばないためにも、ロシアは戦略的な失敗を負わねばなりま

せん。一方、この地域において、日本は第2次世界大戦以来となる厳しい安全保障環境に直面しています。フランスは機会あるごとに、日本への戦略的連携を示しています。とりわけ2023年には、先ほども申し上げた通り、初めてとなる数々の防衛協力が実現しました。

海軍種間:日本の護衛艦「すずつき」がインド洋北西海域にてフランスの空母打撃群「シャルル・ド・ゴール」に加わりました。仏海軍の対空能力強化型多任務フリゲート「ロレーヌ」は6月上旬、海上自衛隊の最新鋭の潜水艦と対潜訓練を実施しました。また、同艦は、航空自衛隊の戦闘機 F-2 と対空訓練を行いました。「ロレーヌ」はその後、米海軍「ロナルド・レーガン」空母打撃群に加わり、日仏米加の多国間訓練に参加しました。一連の訓練の前、5月30日～6月5日にかけて、「ロレーヌ」は東京に寄港しました。防衛省、外務省から合わせて二人の大臣政務官を艦上にお迎えしました。その他、多くの文民・軍人（自衛官）の高官がフランス海軍の最新鋭の同フリゲートを視察されました。東京寄港の一ヶ月前に「ロレーヌ」は、他の国が戦火を恐れ、躊躇する中、いち早くスーダン港に入港しました。人道支援の任務に従事し、約100人のこどもを含む約400人の国連の関係者とその家族をサウジアラビアのジェッダに退避させました。

航空宇宙軍種間:7月26日～29日に亘り、太平洋地域への展開、「ミッション・ペガーズ」の一環として、戦闘機ラファール2機、給油機 A330MRTT 1機、戦術輸送機 A400M 1機が、日本を訪問します。これらの仏軍用機の日本寄航に合せ、仏航空宇宙軍参謀長ステファン・ミル空軍大將が日本を訪問します。今回の日本派遣は、タヒチを母港とする哨戒フリゲート「プレリアル」、フランスのトゥーロンを母港とする多任務フリゲート「ロレーヌ」の日本訪問に続くものです。「ミッション・ペガーズ」には政治的・戦略的な側面

と、フランスと日本を結ぶ航空分野の歴史的のつながりを顕彰する意味があります。

事実、日本初のパイロット徳川好敏はフランスで操縦士としての教育を受け、フランスの「アンリ・ファルマン」機に乗り、日本の航空史上初となる国内飛行を 1910 年 12 月 19 日、成功させています。また、1918 年 8 月 25 日に、フランス政府の任命を受けたジャック=ポール・フォール大佐が日本に派遣される航空教育隊の隊長に任命されました。フォール大佐は日本政府の要請を受け、両国政府合意のもと、陸軍の航空部門の組織編制を任されました。

陸軍種間：日仏間で初となる訓練が南太平洋に所在する海外領土ニューカレドニアにて開催されます。陸上自衛隊は初めて、フランスに一個小隊と支援要員、合わせて 50 名を派遣します。この戦術戦闘訓練は戊辰戦争の日仏の英雄ジュール・ブリュネと西郷隆盛から、「ブリュネ-タカモリ」と命名されました。ジュール・ブリュネは真の「ラスト サムライ」です。みなさまがっかりされるかもしれませんが、「ラスト サムライ」はトム・クルーズではありません。もちろん、素晴らしい映画であることに変わりありませんが。

以上のことから分かるように、今でも、日仏防衛協力の中で、歴史は顕彰され続けています。さて、本日みなさまにお集まりいただいたのは他ではなく原野教授の「作品」というべきでしょうか、活動、に敬意を表するためです。

原野教授、本日はフランスを代表して、本国からのメッセージをお伝えできることを光栄に思います。駐日フランス大使はあいにく、都合がつかず、この場に来ることはできませんでしたが、大使からも最大の感謝の意をお伝えするよう言付かっています。

原野教授は、1983 年より、広島大学で中世フランス文学の研究され、中国地域、ひいては日本におけるフランス文化の普及・伝播において中心的な役割を努められました。

原野教授は、約 20 年ほど前から、フランス戦没者記憶協会と緊密に連携しつつ、ボランティアで個人的に、広島フランス人戦没者の記念碑の保存のため活動され、記憶を継承されてきました。また、1900 年の義和団事件の際、中国に派遣されたフランス軍部隊兵士・水兵の傷病者の広島への後送について研究され、約 10 の記事を発表されました。原野教授はどれだけ多くの時間を日本の図書館で過ごされたことでしょうか！更に、2003 年と 2011 年にはフランスを訪問され、広島に埋葬された 7 人のフランス人軍人の子孫の方々と会われました。

フランス軍の歴史的記憶の継承において、原野教授は多大な実績を残されました。フランスは原野教授を日本国、日本の戦史顕彰会において、模範的な存在であると認識しています。

原野教授、こちらにお越しくください。原野昇教授、これまでの功績に対し、フランスの感謝の意を伝えるため、フランス軍事大臣の名において、国防メダル「ブロンズ」を授与いたします。おめでとうございます！